

## 第2回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

- 【日時】 令和4年8月9日（火） 15:00～16:45  
 【場所】 北別館4階 第1会議室  
 【出席者】 検討委員会委員 16人（欠席1人）  
 教育委員会事務局 5人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

## 1 開会

## 2 議題

## (1) 第1回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会の摘録について

発言者	発言内容
委員長	<p>議題に入る前に、会議の公開・非公開について、皆さんにお諮りいたします。前回事務局から、この会議の公開については、原則として公開するものとする説明がありました。</p> <p>したがって、本日の会議も原則公開を進めたいと思いますが、状況によっては、会議の途中でも公開・非公開の取り扱いをお諮りすることもあります。このような取り扱いでよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>それでは、会議次第をご覧ください。本日は議題が3つあります。その議題に沿って進めていきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、議題の1、第1回の検討委員会の摘録についてです。</p> <p>皆さん既に資料①でご確認いただいていると思いますが、先ほどの会議の公開・非公開と同様に、事務局から会議は原則として公開とし、この摘録は検討委員会の承認を受けた後、公開すると説明がありました。そこで、この摘録の取り扱いについて、2点お諮りいたします。</p> <p>1点目は、この資料①の摘録の内容について確認です。修正等がなければ、この内容が市の情報公開センター、ホームページで公表されることとなりますが、よろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>2点目が、この摘録には議事の経過、及びその結果を明確にするため、2名の委員に署名をお願いしたいと思います。</p> <p>この署名の委員に、「後藤副委員長」と「西田委員」へお願いしたいと思います。皆さんいかがでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>それでは、承認されましたので、2名の委員におかれましては、会議終了後、それぞれ署名をお願いいたします。</p>

(2) 複式学級が発生する学校における学校再編の考え方について

発言者	発言内容
委員長	<p>次に、2つ目の議題「複式学級が発生する学校における学校再編の考え方について」です。</p> <p>この協議に入る前に、前回の検討委員会では、事務局から「大牟田市における市立学校再編整備の経過」、それから「上内小学校における小規模特認校制度の導入の経過」の2点について説明を受けました。</p> <p>この説明を受けて、委員の皆さんからの質問等とあわせて、これから協議を進める上で必要ではないかという資料の要望が2点ありました。</p> <p>1点目は、小規模特認校制度に関すること。2点目は、第二次実施計画（案）に対する保護者・地域等からの意見に関することです。</p> <p>まず初めに、1点目の「小規模特認校制度について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	資料に基づき、小規模特認校制度について説明。
委員長	それでは、ただ今の説明を受けて、皆さん何かご質問等はございませんでしょうか。
委員	<p>前回頂いていた第1回の検討委員会の資料10ページ「上内小学校児童数・学級数の状況と推計」では、上内小学校は、令和5年度に複式学級が見込まれています。</p> <p>前回の教育委員会の説明では、来年度から直ぐに学校再編を行うということになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>再編の基本的な考え方については、保護者・地域からの合意形成が得られた場合は、学校再編の原則どおり、再編となるでしょうが、保護者・地域からの合意形成が得られない場合は、小規模特任校制度を導入して運用するというを前回説明したと思います。</p> <p>それで、委員ご指摘のとおり推計では、令和5年度に複式学級が見込まれます。第1回検討委員会で説明しましたように、特認校制度を導入しても、なお複式学級が生じる場合は、原則、学校再編について協議に入ることとなりますが、すぐに再編を行うということではありません。</p> <p>学校再編には、保護者・地域の皆様の合意形成を図ることが必要です。現時点では、保護者・地域からの合意形成が得られていないため、今すぐ再編を考えているものではありません。</p> <p>また、この推計資料については、来年度以降に特認校制度で入学する児童数は含まれていませんので、特認校制度で入学する児童がいることを考えると、複式学級が解消される可能性もあります。</p>
委員長	要は、すぐに再編ということではないということ。再編までの道というのは色々準備段階等ありますが、今の段階では、保護者・地域からの合意形成が得られていないということが現状ですので、すぐに再編かということが質問の趣旨だったかと思いますが、そうではないという事務局からの回答でした。その他、何かございませんでしょうか。
委員	<p>5ページの小規模特認校制度について、2点質問します。</p> <p>1点目が、3のメリット・デメリットのところ、メリットの5つ目、「不登校だった児童が登校できるようになった」ということで、不登校の現状</p>

	<p>はマスコミ等で結構多いと聞いていますが、実際何人ほどいるのか。</p> <p>2点目がデメリットの1つ目、「様々で個性的な児童の受け入れにより」とあるが、具体的には不登校の子どもとか、支援が必要な子ども、そういう意味での個性的なのか、そこを補足等があれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>小規模校のメリットの5つ目のところ、不登校だった児童が登校できるようになったとありますが、上内小学校は少人数で一人一人に応じたきめ細かな指導が出来るということが特徴だと思っています。それで、大規模校で学校へ行きにくくなった子どもたちが、少人数の学校に来たことで指導が出来るようになり、不登校が解消できたという例も聞いています。</p> <p>また、デメリットの1つ目であるが、今までは元々住んでいる子どもたちだから、上内小学校にはこういう行事があって、こういう伝統があるということを知っていると思います。</p> <p>しかし、元々住んでいる子どもたちと、小規模特認校制度の利用で校区外から通学している子どもたちでは、元々あるような行事などを知らないまま入ってくるので、一から説明しなければならない場合も出てくるのではないかと、こういう表現となっています。</p> <p>したがって、支援が必要な子どもが通学しているようなことではないということをご理解いただきたい。</p>
委員	<p>小規模特認校制度について基本的なことになると思うが教えていただきたい。制度で児童を募集する際は、基本的には新入学児童という理解で良いのか。2年生、3年生とか、学年の途中の募集ではなくて、入学時での募集となるのですか。</p>
事務局	<p>上内小学校では、例年8月頃に募集を掛けており、今保育園、幼稚園等に案内をしているところです。その後、各学校に具体的な案内資料を配り、新1年生から入学できるし、2年生、3年生など、4月からの入学も出来るとしています。しかし、原則、この特認校制度を使つての途中入学は、出来ないこととなっています。</p>
委員	<p>資料5ページのメリット・デメリットにかかることだが、項目2の説明文の最後の行に「児童・保護者・教職員ともに、おおむね良好な評価を得ている」という表現がある。これは子どもたちの分も含んでいると思うが、子どもたちの思いや子ども自身がどう感じているのか、把握されている部分の情報があれば教えてほしい。</p> <p>先ほど、ご指摘があった多様な属性を、場合によっては支援が必要な方等を含め、いろんな子どもさんがいらっしゃるわけですが、そういう中で子どもたち自身がこの制度をどういうふうに感じているのか。あまり個別具体には難しいと思うが、子どもたちにとってこの制度の受け止め方を分かっている範囲で教えていただければと思います。年によっては、人数が減るときもあるし、増えるときもあるけれども、その辺の兼ね合いも少しあるのかと思いますがどうでしょうか。</p>
事務局	<p>保護者、また児童等の思いもしっかりと受け止めながら、進めていくことが大事だと思っています。</p> <p>学習においては、子ども達は少人数になっている分、個に応じた指導が出来るというところを実感しているのではないかと、思っています。ですか</p>

	<p>ら、個に応じた指導が出来ることで、安心して学べる。それと自由に発言できる雰囲気も作ってもらっているので、学習面に関してはとても良い効果が上がっているのではないかと考えています。</p> <p>また、児童アンケートの中でも、やはり子どもたちが先生と人間関係が深まって良かったという意見も聞いているところです。</p>
委員	<p>メリット・デメリットのところであるが、不登校であった児童が登校できるようになったと、これは小学校の間のことであって、その後、私立に進学すると、後追いすることが出来ませんけれども、公立の中学校に行っただけの様子を把握しているのか。上内小学校に通学しているが、その後、中学校、またクラスの多いところに身を置くことになるので、そこまで把握しているのかどうか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>先ほどもご説明したように、不登校の傾向であった子どもが小学校の間、登校出来るようになったという報告は受けているが、その子どもたちが中学校へ行ったときに、どうだったかということは、経過は把握していない。けれども、中学校から特認校制度であった子ども達が多不登校傾向が多いという報告は上がっていないので、スムーズに連携が出来たと思っています。</p>
委員	<p>デメリットの3つ目に、「通常学級ではあるが、支援を必要とする児童が増えてきている」という記載がある。果たして、本当にそうなのかと思います。</p> <p>前回の会議の中でも申し上げたように、この10年間で支援するお子さんが2倍というか、かなり増えている。それを考えた場合、本当にこれをデメリットとして捉えるべきなのか。逆に言うと、そういうお子さんが上内小学校に来たおかげで見えてきたという、私はメリットなのかなという気もする。</p> <p>上内小学校に来て、手厚くしていただいたおかげで、そういうお子さんが見えてくると、私はこれをデメリットとして捉えていいのかなと思いました。これは意見です。</p>
事務局	<p>通常学級で支援を要する子どもが増えているというのは、どの学校もそういう状況だということは、職員、学校現場も含め、理解しているところです。</p> <p>先ほども言ったように、少ない中での手が掛かる子がいることも事実だが、そこは少人数だからこそ、その子達にもしっかりと手厚く指導出来るというのもメリットのところもあると考えている。事実そういうことが増えていることもデメリットとして挙げることも大事であると思い、デメリットの項目に挙げているところです。</p>
委員長	<p>他に確認したい点、質問はありますか。なければ、次に進みます。</p> <p>次に2点目、「第二次実施計画（案）に対する保護者・地域等からの意見について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料に基づき、第二次実施計画（案）に対する保護者・地域等からの意見について説明。</p>

委員長	<p>事務局からの説明が終わりました。皆さん何かご質問はございませんでしょうか。</p> <p>ここは、再編に反対という、今までも出てきたとは思いますが、「保護者・地域の理解を得るに至っていない」という文言がずっと出てきています。いわゆる合意形成ですね。その具体的な反対理由がここに9点ほど挙げられています。これについて、何か質問等はないでしょうか。</p>
委員	<p>主な意見・要望で、再編に反対の4つ目、「再編による地域コミュニティが崩壊することへの不安」であるが、これは今後のキーポイントとなる。</p> <p>ご存じのように、大牟田市は、中学校、小学校の再編が行われてきています。みなと小学校、天の原小学校、天領小学校、駛馬小学校、そこそこで地域性があると思う。それを再編するとなれば、多くの同窓生としては、小学校が無くなると、コミュニティが崩壊することへの心配がある。</p> <p>なぜこういう質問をするのかというと、地域コミュニティが、大都会と同じように「隣の人は何する人ぞ」ということで、うちの隣組も10件ほどありましたが、今は2軒しかありません。その理由は、少子高齢化で子どもが居なくなって公民館も辞めていったとか、高齢世帯で亡くなっているところもあります。極端な話、地域コミュニティは無くなりつつあるのではなく、無くなっているところも増えている。公民館もまち協になってある程度カムバックしたところもあるが、やはり減っている。</p> <p>それで、諮問の内容にもありましたが、上内小学校校区で反対運動が多くて、吉野小学校との再編が出来なかった。それで特認校で回避したという経過がある。今度は、特認校でさえそれが崩れてきているので、諮問にもあるように、やはり上内小学校については、吉野小学校との再編は個人としても避けられなくなってきていると思います。</p> <p>また、複式学級が発生している現状において、県の加配によって回避しているが、将来的に見れば少子高齢化で、これも避けて通れないと思います。</p> <p>まち協の会長などが詳しいでしょうが、先ほどの4小学校は再編しても何年か経っているが、地域コミュニティがどうだったのか。これもメリット・デメリットがあるかもしれないが、そこら辺の情報があったら教えていただきたい。</p> <p>何回も言いますが、上内小学校に複式学級が見込まれる中においては、吉野小学校との再編はもう1回、スタートに立つ時期に来ていると思う。今後、検討していく上で、今まで再編を進めてきた小学校で、地域コミュニティがどうだったのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>これまで小学校再編を行って来ていますが、地域では小学校が生活に密着している学校ですので、小学校の再編に関心を持っています。小学校再編と同時に地域の再編もこれまで行われてきているところです。</p> <p>また、小学校再編に伴い2つの地域が1つになりますが、それぞれの地域で特性があり、反対意見など様々なご意見がありましたけれども、最後は子ども達のために、地域も再編が行われています。</p> <p>これまで、例えば、三川小学校と三里小学校、駛馬南小学校と駛馬北小学校等、学校規模が大きくなり、分かれた学校などの再編も行ってきました。このような学校は元々一つの学校でしたので、再編により元に戻ることで、一緒に頑張られていると聞いています。</p> <p>ただ、再編して異なる校区が一緒になるため、運営の問題などもあり、地域コミュニティ推進課の支援を受けながら、地域活動をされています。</p>

委員	<p>大牟田中央校区も旧上官、旧大牟田と一緒にになったのですが、これは実際に少子化ですから将来的には時代が見えているわけです。そうすると、小学校も中学校も、当然に再編せざるを得なくなる。それぞれの地域がある程度理解をして、のんでいかないといけないし、意見もどんどん出し合っていくと良いと思います。</p> <p>将来的には再編がありきでやっていかないと、通学距離とかも小学校、中学校も決まっているので、それに向けてそれぞれが取り組んでいると思う。</p> <p>どこの地域でも仕方がないことだと思うのですが、それはお互いに話し合っていくと、自然と解決に向けて良い方向に向かって行くのではないかと思います。中央校区内では、再編になったことでデメリットが物凄く出てきたという状況ではない。</p> <p>ただし、市中心部の再編と郊外の再編の在り方が、非常に難しいと思います。その在り方をきちんと地域の方々と話し合いながらやっていかないと、上内校区と吉野校区のように再編が出来ずにある状況になると、これはいずれひずみが来ると個人的には思います。早期に解決策をお互い話し合っ、良い方向に向かって行かれた方が良いのではないかと思います。</p>
委員	<p>この資料については、パブリックコメントで公表されてある部分で、市民の方も大体ご存じであると思います。今からすると少々古い感じで、この資料を見るとやはり反対が多いと感じたが、実際には再編に賛成の方も決して少なくない印象を持っています。賛成に対して積極的な発言が中々難しいとか、地域のことを考えて反対に回らざるを得ないということもあろうかと思うけれども、これが時間を経て、今、それから今後ということになっていくと、様々な意見が出てくるのではないかと感じました。</p> <p>ここでお尋ねしたいのは、この再編に賛成という2つの意見のほかに、何か賛成の要素がある部分があったり、あるいは賛成意見の強さとか、数的なものなど、もう少し補足部分があったらお聞きしたい。</p>
事務局	<p>ここに書いている部分は、吉野校区と上内校区からの意見の集計となっています。それで、2つを比べると反対意見は上内校区の方が多く、吉野校区はこれだけ小規模化になって複式になるのだったら、早く再編をした方が良いのではないかとのご意見がありました。</p> <p>ただし、再編は賛成だが上内校区の話をよく聞いて再編をすべきという意見が多かったところです。</p> <p>全体的には、再編に賛成意見よりも反対意見の方が、上内校区からの方が多かったというような内容です。</p>
委員	<p>2点ほど質問します。</p> <p>まずは、反対意見というのは、もちろん大人が中心の話になると思うのですが、例えば、児童は現状などについてどのように思っているのか。やはりある程度の規模で学校行事とかも行う方が、子どもにとっては良いことだと思うし、楽しいのかなと個人的には思うのですが、10年以上経っているの、この時の状況と今の状況は違うとは思。そういったところのコメントとかは資料として残っているのかお尋ねしたい。</p> <p>それと、上内校区からの反対意見があるようですが、これも10年以上前の話なので、上内校区と吉野校区の保護者の方にこれ以降は、意見を求めたり、アンケートを実施したりとかしていないのでしょうか。</p>

事務局	<p>1点目について、児童と保護者にアンケートを取っているのですが、その時の児童の部分の集計は、小規模特認校制度を導入したことによって児童数が増えたことに対して、子ども達は新しい友達が増えて楽しくなったと感じていると。また、制度利用者は、上内の特色と温かい人間関係に感謝をしているといった意見がありました。</p> <p>また、仲良くできるとの理由から、現在の人数程度の少人数学級を希望している児童が多くて、クラス替えについても半数程度は望んでいないというアンケート結果が出ているところです。</p> <p>2点目の10年以上経っている中、それ以降のアンケート等の実施については、その後は、保護者・地域の理解を得るまでには至っておらず再編は行われていませんので、そういったアンケート調査は今のところやっていないという状況です。</p>
委員長	<p>事務局は、具体的にアンケートは実施していないけれども、いろんな学校行事とか、そういった折に状況はどうかということを知っているわけでしょう。</p>
事務局	<p>アンケート自体は取っていませんが、個別に地域の会長・PTA会長等には、出向いたり学校行事の折にお話をさせていただいています。</p>
委員	<p>再編に反対意見の2番目、「再編による遠距離通学及び通学路の安全確保」というところで、再編になった場合に、子ども達の安全確保をどのように考えているのか。</p> <p>例えば、みやま市、柳川市も再編が進んでいるようですけれども、スクールバスの運用などを聞いていますが、安全を確保するためには、どのようにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>学校再編では、再編するに当たって、再編する2年前に学校再編協議会を設置します。そこで再編に向けて通学路の安全確保等を含めた課題を検討します。</p> <p>適正配置の基準では、通学距離が小学校の場合は概ね3キロ、中学校の場合は概ね6キロとしています。それを超えると遠距離通学になり、市では、通学支援をしています。</p> <p>また、通学の安全確保については、子ども達が通学する通学路は、再編によって通学距離が変わったり、通学路が変わったりしますので、再編協議会で通学路の危険箇所を洗い出して現地視察を行い、危険性等を確認します。その後、その道路の道路管理者、市道でしたら市役所、県道でしたら南筑後県土整備事務所に道路の改善等の要望をします。</p> <p>また、横断歩道の設置要望等は、大牟田警察署に要望書を出すことになります。これまで再編協議会の中で安全対策を検討して、要望活動してきたところです。</p>
委員長	<p>それでは、今日の本題に入りたいと思います。</p> <p>本日は、議題にあるように「複式学級が発生する学校における学校再編の考え方」について検討を行います。</p> <p>この議題を見ていただくと、皆さんご存じのとおり諮問事項そのものです。</p> <p>したがって、答申の協議を今後していくわけですが、答申に繋がる協議の柱になります。</p>

	<p>そこで、協議を始める前に大牟田市の教育委員会として「これまでの学校再編の考え方」を知ることが、これから議論を進めていく上で必要だと考えましたので、私の方から事務局に資料をお願いしました。</p> <p>ここで皆さんにお諮りをします。事務局に「これまでの学校再編の考え方」を説明していただいてもよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>ありがとうございます。皆さん、ここは今後大事な点ですので、しっかり押さえておきましょう。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。(追加資料配付)</p>
事務局	資料に基づき、学校再編に関する教育委員会の考え方について説明
委員長	<p>ただ今、事務局から資料に基づき、「学校再編に関する教育委員会の考え方」、その中の1つ目、教育委員会の考え方、それから今後の検討課題が3点あったと思います。この説明を受けました。</p> <p>1点目、教育委員会の考え方については、今までのこういった経過等の説明を受けました。この内容については、次の検討課題を解決する道筋というものとして捉えて良いと思います。</p> <p>そこで、検討課題が3点ありますので、これが今回の議題「複式が発生する学校における学校再編の考え方について」の協議の柱、すなわち答申に繋がる協議の柱になると考えています。</p> <p>私の方でそのように捉えています。皆さんそういった捉え方で良いでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	それでは、さっそくこの3つの検討課題について協議を行い、できれば3つの結果のまとめまで行って、他にも検討課題があれば追加で協議を行うということで進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。
全委員	異議なし
委員長	それでは、検討課題の1つ目、①上内小学校は既に小規模特認校制度を運用しているが、それでも複式学級が解消されない場合、どうするかという検討課題です。皆さんいかがでしょうか。
委員	<p>これは地域に意見を聞いてからもう年数が相当経っている。それで、もしかすると上内小学校にしても吉野小学校にしても、お互いに状況が変わってきているかもしれない。その当時はそうだったかもしれないが、現状ではもしかすると変化があっているかもしれない。</p> <p>そういう意味では、もう1回アンケートの実施、保護者や児童の意見を聞くなど、解決策を見出していかないと、いずれそういう状況は出てくるわけですし、この前頂いた資料の表にも出てきているように、これが見えていて、それならどうするかと、ここに合意形成が得られなければ再編はないと。だから、当時と状況が変わっているかもしれないのであれば、地域からもう1回意見を取って、それを参考にしてやっていくのが一つの方法ではないかなと思います。</p>



委員長	<p>先ほども意見が出ていましたが、10年以上経過しているわけです。それで、先ほどあった9つの反対意見も、10年経過とともに解消している部分もあるのではなかろうか。あるいは、もしかしたらまた地域としても新たな課題が出てきているかもしれないし、そういった意味で、どうかという委員からのご意見でした。その他ないでしょうか。</p>
委員	<p>教育委員会の考え方が一番下の項目になりますが、「平成28年度、上記答申に基づく小規模特認校制度の検証実施」の中に、「保護者アンケートでは複式学級経験児童の全保護者が、複式学級は望んでいないと回答している。小規模特認校制度を運用しても、なお複式学級が生じる場合は、学校再編について再び協議に入ることとする」としてありますので、これは学校再編について再び協議をしなければならないということは、状況として明白であるというふうに思います。</p>
委員	<p>複式学級のことが出ていますが、アンケートでも経験児童の全保護者は、やはり複式学級は望んでいないと出ています。</p> <p>それで、実は、私は20年前くらいにはなるのですが、実際に複式学級を行っている教師の立場でした。小さな学校で全校15名しかおりませんでした。その中で複式学級を行ったのですが、同じ学級に2学年いると「わたり」の授業ということで、背中合わせで前と後ろの黒板を使いながら、1学級の方には、「ちょっとプリントを解いていてね」「前の振り返りをしておいてね」と、そうしている間に反対側には、今日の学習の目当ては、見通しはということで、教師が行ったり来たりします。一生懸命するのですが、やはり子どもの中では、思考が邪魔されてしまう授業がどうしても有ってしまったりする。</p> <p>また、人数が少ないことによって、基礎・基本の力は付くのですが、今、子ども達に主体的で対話的な深い学びをやっていこうということで、いろんな考え方が出て、その中でたくさんの方に気づいたり、発見があったり、深まったり、広まったり、視野が広がったりします。そういった学習を積み重ねていくことが、今の子ども達には、将来社会を担って行ってもらい、創り手となる子ども達を育てるためには、本当にそういった日々の切磋琢磨する時間、環境というのが凄く必要になります。</p> <p>それを考えた時には、やはり同じ学年の子ども達がある程度の人数がいるという条件でないと、中々その学習を積み上げることが出来ません。だから、そういった意味では、複式学級というのはその辺りが弱いのではないかと思います。</p> <p>それで、学級会の話し合いとかでも、たくさん意見が出るからこそ、譲ったり、譲られたり、折衷案を作ったり、歩み寄ったりと、人として生きていくコミュニケーションを取る上でも、やはり人数がある程度いるということが、大切な力になってきます。</p> <p>これは経験なのですが、卒業生が中学校に入学した後、元々中一ギャップというのは、どのお子さんにもあるわけですが、本当に少ない学校から大人数の中学校へ入った時に、うるさくてたまりませんというのが、正直な言葉でありました。もう教室にいるのがつらいというか、ずっと静かな少ない環境の中にと、それが当たり前になって、中学への入学で中一ギャップを大きく感じてしまうというか、何とか乗り越えて学校には行ってくれたのですが、子どもにとってはつらい時間があったのかなと思いました。</p> <p>そういったいろんな面を考えると、やはり複式学級は厳しい。よければ</p>

	<p>小規模特認校で何とか同じ学年に人数を増やす。それで、上内小学校の場合は、とても難しいのでしょうかけれども、それが無理なら再編の方に行くということが自然かなと思います。子ども達のことを思えば、それが一番良いのではないかと感じます。</p>
委員長	<p>今、複式学級の経験があるということで、やはり経験された生の声というのは説得力があります。いかに複式学級を回避しないとイケないかということですが、</p> <p>実は、私も30数年前になりますけれども、複式学級の経験は無いのですが、学校をずっと見て回ったことがあります。旧八女郡ですが、皆さんご存じのとおり、黒木、八女、上陽、星野がありますけれども、今話があったように、皆さんこう並んでいますけれども、対面ではなく反対ですね。前と後ろに黒板があり、私が行った時はその間に仕切りは無かったです。3年生、4年生であったかと思いますが、先生があっち行きこっち行き「わたり」をするわけです。「ずらし」をしながら「わたり」をするとよく言いますが、指導の内容をわざと学年ごとに少しずつずらして、これは「わたり」がしやすいようにずらしていく、そういうことも先生方はやらないとイケない。相当な負担があるわけです。</p> <p>それで、初めて見た時に感動したのは、片方は直接指導で、片方は間接指導、こっちは自習になるのですが、その時に子どもが先生の役割ではないのですが、いわゆるガイド学習と言うのですけれども、ガイド役をかってやるわけです。それが学年をまとめる形で、そういうことをやりながら、先生方がわたりをやっていくと、そういうことを訪問して見た経験があります。</p> <p>やはり、複式学級というのは回避しないと学校も負担ですけれども、子ども達も負担、あるいは保護者も不安も感じると、そういった状況ですので、これから先協議をしていく上で、複式学級は回避すべきだろうと思っています。他にご意見等はありますでしょうか。</p>
委員	<p>これまでの考え方を踏まえた上での検討ということになっている。検討課題で「どうするのか」という問いかけになっているが、実際は小規模特認校制度、それから複式学級回避を繰り返した上で、その先は再編という二者択一のものではなくて、一直線上に課題があって、「どうするのか」ではなく、「どこまで進むのか」という話に現在の法制度の中では、そうせざるを得ないかなと思います。</p> <p>これまでも子どもたちが主体に立って検討された結果、現在に至っているわけですので、今日の課題に向き合っては、選択肢がいくつもあるわけではなくて、どこまで進むのかと、またいつ進むのかと、その手順をどう丁寧にやっていくのかということになるのではないかと思います。</p> <p>また、子ども達の数が少ないということに関しても、今、どの学校でもICTが進んで、画面を通してということになりますけれども、遠隔授業で国を超えて会話が出来るような体制を取れるようになっています。</p> <p>ですから、多様な学び方は出てきているとは思いますが、私も高校ですべてやってきましたけれども、やはり関係性を学ぶのは、画面を通してでは難しいですし、そして、触れ合う距離で、実際行事なり、児童会の活動なり社会体験なりを含めて、場を共有してやる学びというのは、発達段階にかかわらず極めて大事なことです。</p> <p>そういう子ども達の学びの場を確保していく上においても、繰り返しになるが、選択肢がいくつもあるわけではなくて、どういうふうに進んでい</p>

	<p>くかと、いつまでにどのくらい手順を丁寧にして進んでいくかという議論になっているように感じたところです。</p>
委員長	<p>そろそろまとめたいと思いますがよろしいでしょうか。      今までいろいろ説明、あるいはご意見等いただきました。それで、こういうふうにまとめたらどうでしょうか。      ①は上内小学校に限定しますので、これは今まで出てきたことの繰り返しになると思います。上内小学校は、保護者・地域からの合意形成が得られた場合、学校再編の原則どおり、再編となるのですが、保護者・地域からの合意形成が得られない場合は、小規模特認校制度を継続すると、こういったまとめにしかならないと思いますが、どうでしょうか。</p>
全委員	<p>異議なし</p>
委員長	<p>①については、そのようにまとめたいと思います。      次は、玉川小学校です。玉川小学校は、令和5年度から複式学級の可能性があるが、どう回避するのか。また、市内のその他の学校で複式学級が発生する場合、どう回避するのかです。      ②は玉川小学校と、その他の学校の件です。これは先ほどから出ている複式学級が発生する恐れがあり、やはり複式学級を回避しないといけない。どう回避していくかということですが、この課題に対して皆さんいかがでしょうか。</p>
委員	<p>上内小学校は、平成24年度より小規模特認校制度を導入されています。それにより市内全域から就学が可能になりました。それで児童数が増えるということは、子ども達にとっては同級生が増えるということになり、同級生がいるということが当たり前の環境を用意出来たということだと思います。      私自身、自分の子どものことを思っても、上の娘は小学校の時は2クラス、下の息子は小学校の時3クラスで、我が子でも2クラスと3クラスの違いというのは、とても大きく感じています。      それで、今、子ども達は社会人になりましたけれども、息子の方は3クラスあったため、先ほど委員が言われた通り、人との触れ合える数の多さ、それで社会に出てからは息子の方がより対応できたと感じています。      それで、玉川小学校も来年度のことですけれども、時間がありませんので、上内小学校と同様に小規模特認校制度を導入してはどうかという考えでいます。</p>
委員長	<p>それでは質問がなければまとめたいと思います。      これは、上内小学校の先例がありますので、玉川小学校については、やはり同じように、保護者・地域からの合意形成が得られた場合、学校再編の原則どおり、再編となるのですが、保護者・地域からの合意形成が得られない場合は、複式学級回避のため小規模特認校制度を導入する。      それから、市内の他の学校においても、保護者・地域からの合意形成が得られた場合、学校再編の原則どおり、再編となるのですが、保護者・地域からの合意形成が得られない場合は、複式学級回避のため、小規模特認校制度を導入するというのでまとめたいと思いますが、皆</p>

	さんいかがでしょうか。
全委員	異議なし
委員長	<p>次は、検討課題の最後、③についてです。小規模特認校制度を運用しても、なお複式学級が生じる場合は、どうするのかという課題です。これは上内小学校とは違います。これは一般的な話になろうかと思いますが、皆さんいかがでしょうか。</p> <p>これも今まで出てきた例によると、もう必然とまとめが出てくると思います。まとめてよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>これは、小規模特認校制度を運用しても、なお複式学級が生じる場合は、学校再編について再び協議に入ることとするということでもまとめたいと思います。</p> <p>以上のまとめでよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>以上で、検討課題が3つありましたが協議が終わりました。その他の協議すべき事項があれば、協議したいと思いますがいかがでしょうか。なければ、今、3つの検討課題の協議で概ね先ほど来言っていました答申の方向性が整理されたと思います。</p> <p>それでは、時間の都合もありますので、一気に進めたいと思います。本来であれば時間がありましたら委員の皆さんからお一人ずつ意見等をお聞きしたかったところですが、これは次回に回したいと思います。</p>

### (3) 議事のまとめ、次回の進め方

発言者	発言内容
委員長	<p>今回の議事のまとめと次回の議題について進めます。</p> <p>まずは、前回の議題でありました「大牟田市における市立学校再編整備の経過」、それから上内小学校への「小規模特認校制度導入の経過」について、皆さんからのご意見、ご要望に関して事務局から補足説明等を受けました。</p> <p>次に、「学校再編に関する教育委員会の考え方」の説明を受け、複式学級の発生に伴う3つの課題について検討を行いました。</p> <p>1つ目のまとめとして、「上内小学校は既に小規模特認校制度を運用しているが、それでも複式学級が解消されない場合」については、先ほどまとめで言いました通り、「保護者・地域からの合意形成が得られた場合、学校再編の原則どおり、再編となるのですが、保護者・地域からの合意形成が得られない場合は、小規模特認校制度を継続する」というまとめといたしました。</p> <p>次に2つ目です。「玉川小学校は令和5年度に複式学級の可能性があるが、どう回避するのか。また、市内のその他の学校で複式学級が発生する場合、どう回避するのか。」</p> <p>これについては、玉川小学校は、保護者・地域からの合意形成が得られた場合、学校再編の原則どおり、再編となるのですが、保護者・</p>

	<p>地域からの合意形成が得られない場合は、複式学級回避のため小規模特認校制度を導入するというまとめといたしました。</p> <p>また、市内のその他の学校についても同様に保護者・地域からの合意形成が得られた場合、学校再編の原則どおり、再編となるのですが、保護者・地域からの合意形成が得られない場合は、複式学級回避のため、小規模特認校制度を導入するというまとめといたしました。</p> <p>次に3つ目の「小規模特認校制度を運用しても、なお複式学級が生じる場合」はどうするのかということですが、この場合は、学校再編について再び協議に入ることとするというまとめといたしました。</p> <p>以上が今回の議事のまとめですが、皆さんこういったまとめでいかがでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>今回の検討課題の協議で答申の方向性というものが整理できたと思います。</p> <p>次回の会議の進め方としては、前半にこれまでの協議の確認とまとめを再度行って、後半は、答申の素案を皆さんに提示して、検討を行いたいと思います。なお、素案については、これまでの協議を基に私と後藤副委員長で取りまとめたいと思っておりますが、皆さんよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>それではそのようにいたします。</p> <p>次回の会議開催等について、事務局案はありますでしょうか。</p>
事務局	<p>次回の検討委員会の開催については、スケジュールでは10月上旬ごろとお知らせしていましたが、10月5日（水）に開催できればと考えています。</p> <p>また、時間については15時から、場所についても本日と同じ会場をお願いしたいと思います。</p>
委員長	<p>ただいま、事務局から第3回については、10月5日（水）開催の提案が出ました。委員の皆さんよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>10月5日（水）、15時ということで委員の皆さんよろしくお願いたします。</p> <p>その他、委員の皆様から何かございませんか。</p> <p>それでは、他にご意見等無いようでしたら、これで本日の審議を終了したいと思います。たくさんご意見を出していただき、本当にありがとうございました。</p>

### 3 閉会